



分校だより

1月号

令和2年1月8日発行
埼玉県立けやき特別支援学校
伊奈分校
048-723-2201

新年あけましておめでとうございます

校長 三原 和弘

昨年読んだ本『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（ブレディみかこ著）の中に「自分で誰かの靴を履いてみる」という言葉が出てきました。この言葉が出てきた背景は、英国の公立学校の7年生から9年生（日本でいうと中学校）の生徒が学んでいるシティズンシップ・エデュケーションという科目の試験で『「エンパシーとは何か」とは』という試験問題が出されたことでした。本の中では、「エンパシー(empathy)」の意味は、ケンブリッジ英英辞典のサイトでは「自分がその人の立場だったらどうだろうと想像することによって誰かの感情や経験を分かち合う能力」と書かれているようで、作者は「自分と違う理念や信念を持つ人や、別にかわいそうだとは思えない立場の人々が何を考えているのだろうと想像する力のことだ。」と記してあります。そしてその問題の回答として中学1年生のご息子が回答した言葉が「自分で誰かの靴を履いてみる」とでした。恥ずかしながら、そのような英語の定型表現があることなど知らなかったのも、とても興味深く感じました。普段使っている言葉の中に、「相手の立場になって考えよう」がありますが、こんな表現ならいつもと違って、さらに考えさせられるのではないかと思います。この言葉自体を考えることも大きな学びになると思います。

また、私たちがいま取り組んでいる新学習指導要領の前文の中には「・・・、一人一人の児童又は生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」とあります。このことを達成する根底に、少なくとも「エンパシー」「自分で誰かの靴を履いてみる」という言葉を据えておくことは学びに確実に生きてくるはずで、様々な意見を交わし、建設的な考えを出しあい、様々な主張をしながら社会を作り上げていく存在になってほしいと思います。

最後に、私たち教職員も、子どもたちに求めるだけでなく、このエンパシーという言葉の意味を踏まえつつ、さらに研鑽を深め、力を合わせてけやき特別支援学校の教育に取り組んでまいります。日頃から、本校教育のためにご理解、ご協力をいただいておりますことに感謝するとともに、本年もご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。



国際交流授業

12月5日（木）今年度2回目の国際交流授業が行われました。

今回も、県庁からジョシュアさん、カビアさんが来てくださいました。

今回のテーマは「クリスマス」でした。オーストラリア人のジョシュアさんと、インド人でアメリカの大学を卒業されたカビアさんが、オーストラリア、インド、アメリカのクリスマスについてクイズ形式で出題してくださいました。

子供たちは、4つのチームに分かれ、チームで話し合い、挑戦するクイズ（4つの難易度に分かれていて、難易度に比例して得点上がる）を選択し、答えを出しました。「インドのクリスマスツリーは、バナナやマンゴーの木を使う。」「サンタクロースの本名は、St. ニコラス」など、など初めて知ることも多く、楽しく勉強になる国際交流授業となりました。



1月の予定



8日（水） 3学期始業式 短縮授業 11:55 下校
24日（金） 和文化体験（落語会）

